

1 学校教育目標	
「伝統ある明倫館の学風および松陰先生の教育精神に学び、さらに格調高き明倫教育の創造に努め、もって国家社会の形成者となる有能な人間の育成を図る。～ 人としての生き方を学び、共に高めあう子どもの育成～」を基調とし、次の4つの項目を中心に伝統をふまえた創意ある教育活動の展開に努める。 ① 保護者や地域社会との連携を深めて教育活動を充実させる。【開かれた学校づくり】 ② 主体的に学ぶ学習活動の展開に努める。【熱く燃える心、学ぶ力や創る力の育成】 ③ 心豊かな感性を育む教育の推進に努める。【温かい心、生き抜く力の高揚】 ④ 安心・安全な学校づくりを推進する。【安心・安全な学校づくり】	

2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)	
○特色ある学校づくり	○朗唱や松陰読本と児童の日々の生活を結び付けるための、めあての設定や振り返りの取組が定着してきている。学校だより・校長室だよりや学年だより・学級だよりの発行、Webページの更新等、積極的に情報発信をしてきたことが保護者や地域からの声に成果として表れている。 ●全教職員が松陰教育に取り組み意義や実施方法を共通理解し、総合的な学習の時間や道徳や学級活動、学年集会等による実践の検証・改善が求められる。情報は様々な方法で具体的に内容を発信するとともに、指導すべきことを含め担任の思いや願いを伝えていく必要がある。
○学力の向上	○「書いてかかわり合う活動」を重視した計画的な校内研修を通して、「めあて」「一人学び」「とも学び」「振り返り」の流れを教員が共通理解して取り組み、授業改善による学力の向上を進めることができた。自主学習を3年生以上の全校的な取組として実施することができた。 ●「自学ノートだより」や「自学ノートの展示」など、自主学習の具体的な情報提供を進めてきたが、今後もより一層の家庭と連携した家庭学習のレベルアップを図ることが求められる。授業改善においては、明確なめあてを提示し教師の手立てをさらに工夫して行う必要がある。
○心の教育の充実	○「7mのあいさつ」の具体的な指導が保護者や地域からも理解を得られ、児童の変容として表れてきた。教員の働きかけによって、係活動や委員会活動等において主体的に企画・運営をして、みんなのために取り組む児童が増えてきた。 ●「あいさつ」については、全教職員が共通理解の上、指導を徹底して行う必要がある。児童の主体的な取組を今後も意図的に設定し、「志」をもたせる目標設定のあり方や働きかけの方法を教員間で共有し、教育活動の充実を図ることが求められる。
○安心・安全な環境づくり	○配慮を要する児童への対応として、校内コーディネーターや生徒指導主任等を中心に、情報交換会やケース会議等を開き、担任が一人で抱え込むことのないように連携体制を構築することができた。 ●特別支援教育関係の職員は、各分掌に配置され、研修や会議、情報交換等により日常的に意思の疎通を図り、連携して対応にあたることができるようになることが今後求められる。
○業務改善	○会議の効率的な運営と時間短縮により会議の延長時間を縮小し、学級事務の時間確保を意図的に実施してきた。業務データを適切に管理し、業務の効率化につながった。 ●会議の内容についての精選と新校舎での計画や新たな試みに対する傾注を図り、児童への教育活動に還元することが求められる。文書集中管理や一つの職員室での運営による効果も期待したい。

3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題	
「ひたむきで ぬくもりのある さわやかな明倫小学校」をめざす学校像として掲げ、次の4点を重点的に取り組む。 ① 特色ある学校づくり:心を育て、才能を伸ばす教育として、「成徳達材」と「松陰教育」を基底に据えて推進する。朗唱や松陰読本の活用についての授業等の実践を進め、家庭や地域に効果的に情報発信を行う。 ② 学力の向上:動機づけや意欲づけを大切にし、教師の手立てを明確にした授業改善を中核にすえての学力向上や、自主学習や読書等の家庭学習の充実に向けた取組を家庭と連携して進める。 ③ 心の教育の充実(明倫小ABCの充実と発展): (A)相手より先に明るく元気な「7mのあいさつ」を実践する。(B)美しい心と美しい環境づくりに努める。(C)めあてに向かって主体的に取り組む児童を育てる。 ④ 安心・安全な環境づくり:いじめのない楽しい学校づくり、一人ひとりの理解に努める生徒指導を推進する。全教職員が共通理解した組織的な指導と児童の主体的な取組の両面を大切にして推進する。	

4 自己評価				5 学校関係者評価			
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
特色ある学校づくり	松陰教育の推進	○松陰教育(朗唱・松陰読本の活用等)を根幹とした教育活動を展開する。 ・朗唱、松陰読本とかかわりのある教育実践(道徳・キャリア教育)の推進	4: 松陰教育にかかわる教育実践が充実したと考える教員が80%以上 3: 松陰教育にかかわる教育実践が充実したと考える教員が60%以上 2: 松陰教育にかかわる教育実践が充実したと考える教員が40%以上 1: 松陰教育にかかわる教育実践が充実したと考える教員が40%未満	4	85%の教員が肯定的な評価をしている。朗唱文から各自のめあてを設定し、家庭と連携しながら継続的に取り組んでいることや、松陰読本を活用した授業等から高評価となっていると考えられる。今後、さらにキャリア教育や総合的な学習の時間等を中心に教材開発等をしていくことが求められる。		
	保護者・地域との連携強化	○積極的な情報発信を行う。 ・学校だより、学年・学級だよりによる教育活動についての積極的な情報発信	4: お便りにより学校の教育活動が理解できたと考える保護者が80%以上 3: お便りにより学校の教育活動が理解できたと考える保護者が60%以上 2: お便りにより学校の教育活動が理解できたと考える保護者が40%以上 1: お便りにより学校の教育活動が理解できたと考える保護者が40%未満	4	98%の保護者、96%の教員が肯定的な評価をしている。積極的な情報発信ができていると考えられる。学級だよりによる学級の具体的な活動の様子を発信したり、各種だよりも期待されている。内容や発信方法で工夫・改善を進めながら、指導の意図なども伝えていく必要がある。		
学力の向上	学力向上プランの改善と実践	○学力向上プランの改善を図る。 ・家庭学習の充実 ・自主学習の推進	4: 家庭学習(20分・40分・60分)が充実していると考える保護者が80%以上 3: 家庭学習(20分・40分・60分)が充実していると考える保護者が60%以上 2: 家庭学習(20分・40分・60分)が充実していると考える保護者が40%以上 1: 家庭学習(20分・40分・60分)が充実していると考える保護者が40%未満	3	78%の保護者が、肯定的な評価をしている。一方、教員は85%であり、保護者の児童に対する期待がより高いことがうかがえる。自主学習の内容や仕方については、学級だよりやノート展示等で、児童に示すとともに、保護者にも具体的に充実した情報を積極的に提供することが求められる。		
	授業研究・授業評価をととした授業改善	○校内研修のテーマに基づき、書いてかかわり合う活動を通して高め合う活動の充実を図る。	4: 明確なめあてを提示し、書いてかかわり合う活動を通して高め合う授業ができたと考える教員が80%以上 3: 明確なめあてを提示し、書いてかかわり合う活動を通して高め合う授業ができたと考える教員が60%以上 2: 明確なめあてを提示し、書いてかかわり合う活動を通して高め合う授業ができたと考える教員が40%以上 1: 明確なめあてを提示し、書いてかかわり合う活動を通して高め合う授業ができたと考える教員が40%未満	4	91%の教員が肯定的な評価をしている。校内研修をとおして、児童にわかりやすいめあての提示や「書いてかかわり合う活動」を通して1時間のねらいを達成することを教員が共通理解して取り組み、授業改善をしてきた成果である。さらに、児童一人ひとりの学力の向上に向けて、研修を積み重ねていきたい。		
心の教育の充実	明倫小(A)	○相手より先に明るく元気な「7mのあいさつ」ができる児童を育てる。 ・「相手の目を見て、いい顔で、相手より先に、続けよう」	4: 相手より先に明るく元気なあいさつができた児童が80%以上 3: 相手より先に明るく元気なあいさつができた児童が60%以上 2: 相手より先に明るく元気なあいさつができた児童が40%以上 1: 相手より先に明るく元気なあいさつができた児童が40%未満	4	88%の児童が、肯定的な評価をしている。教職員も93%で、学校全体で「7mのあいさつ」に継続的に取り組んでいることが高評価につながっている。一方、保護者は77%とやや低くなっていて、地域・家庭との連携によるあいさつ指導が求められる。		
	明倫小(B)	○心を美しく磨き、美しい環境づくりができる児童を育てる。 ・いじめを絶対にしない ・履物を揃える ・花壇の世話をする ・とりかき早くし、黙って時間いっぱい掃除をする	4: だまって一生懸命清掃ができた児童が80%以上 3: だまって一生懸命清掃ができた児童が60%以上 2: だまって一生懸命清掃ができた児童が40%以上 1: だまって一生懸命清掃ができた児童が40%未満	4	88%の児童が、肯定的な評価をしている。一方教員は77%であり、やや低い評価となっている。教員が見ているときと見ていないときでは、その態度が異なる児童もいるため、無言清掃の必要性を、学年に応じて指導していくことが求められる。		
	明倫小(C)	○主体的に取り組む活動を設定する。 ・係活動や委員会活動 ○夢や志をもたせ、具体的な目標に向けて挑戦する心情を育てる。 ・めあての設定や振り返り	4: めあてをもって係や委員会活動など自分から進んで取り組んだ児童が80%以上 3: めあてをもって係や委員会活動など自分から進んで取り組んだ児童が60%以上 2: めあてをもって係や委員会活動など自分から進んで取り組んだ児童が40%以上 1: めあてをもって係や委員会活動など自分から進んで取り組んだ児童が40%未満	4	90%の児童が、肯定的な評価をしている。保護者は83%、教員は81%である。各学期の個人めあての設定や授業でのめあての提示など、児童がめあてを意識して行動できるよう取り組んでいるが、今後も児童が主体的に取り組める場作りを工夫すると共に、保護者とも連携していくことが必要である。		
安心・安全な環境づくり	安心な環境づくり	○温かい人間関係づくりに努める。 ・学校いじめ防止基本方針の具体的な運営 ・教育相談の充実 ・配慮を要する児童への適切かつ組織的なかわり	4: 友だち関係がうまくいき、学校に行くことが楽しかった児童が80%以上 3: 友だち関係がうまくいき、学校に行くことが楽しかった児童が60%以上 2: 友だち関係がうまくいき、学校に行くことが楽しかった児童が40%以上 1: 友だち関係がうまくいき、学校に行くことが楽しかった児童が40%未満	4	93%の児童が、肯定的な評価をしている。一方教員は配慮を要する児童への適切かつ組織的なかわりについての肯定的評価が94%であり、児童の発するサインを素早く捉えて、組織的に対応しているといえる。今後も、毎週行っている生活アンケートや定期的な教育相談を中心に児童の心に寄り添った指導を進めていきたい。		
	安全な環境づくり	○適確な安全指導を行う。 ・無言の教室移動 ・正しい廊下歩行 ・室内での落ち着いた学校生活 ・安全な登下校	4: 正しい廊下歩行や室内での落ち着いた学校生活ができた児童が80%以上 3: 正しい廊下歩行や室内での落ち着いた学校生活ができた児童が60%以上 2: 正しい廊下歩行や室内での落ち着いた学校生活ができた児童が40%以上 1: 正しい廊下歩行や室内での落ち着いた学校生活ができた児童が40%未満	4	87%の児童が、肯定的な評価をしている。教員は肯定的評価が83%であり、新校舎の中で落ち着いた学校生活を送っているといえる。しかし、まだ一部の児童は廊下歩行や学校生活に落ち着きが見られないため、継続的に指導していく必要がある。		
	学校の組織等	○会議の効率的な運営を図る。 ○会議の精選を図る。	4: 検討内容の明確化により効率的な運営が図れたと考える教員が80%以上 3: 検討内容の明確化により効率的な運営が図れたと考える教員が60%以上 2: 検討内容の明確化により効率的な運営が図れたと考える教員が40%以上 1: 検討内容の明確化により効率的な運営が図れたと考える教員が40%未満	4	84%の教職員が、肯定的な評価をしている。企画会で協議を十分にし、職員会議では検討内容を明確にして進めている成果と考えられる。今後は、部会、企画会、職員会、同学年会各会議の機能を有効に活用し、より効率的に進められるよう工夫する必要がある。		
業務改善	日常的な業務	○データの管理・活用による業務の効率化を図る。	4: 適切なデータ管理と活用ができたと考える教員が80%以上 3: 適切なデータ管理と活用ができたと考える教員が60%以上 2: 適切なデータ管理と活用ができたと考える教員が40%以上 1: 適切なデータ管理と活用ができたと考える教員が40%未満	4	86%の教職員が、肯定的な評価をしている。昨年度末に比べると5%である。今後は、データ管理やメール処理等、全職員で周知、徹底していきたい。		
	勤務状況の改善	○時間外勤務時間を減少させ、勤務状況の改善を図る。	4: 学級事務の時間確保が図れたと考える教員が80%以上 3: 学級事務の時間確保が図れたと考える教員が60%以上 2: 学級事務の時間確保が図れたと考える教員が40%以上 1: 学級事務の時間確保が図れたと考える教員が40%未満	3	60%の教職員が、肯定的な評価をしている。昨年度末と比べると6%である。各作業の電子化等を工夫し、時間確保に努め、教材研究や子どものかかわりの時間を増やすことへつなげたい。		

6 学校評価総括(取組の成果と課題)	
(この欄は空欄です)	

7 次年度への改善策	
(この欄は空欄です)	